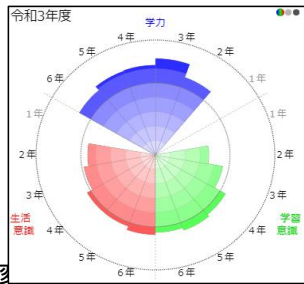


学力向上アクションプラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|-------------|--|
| 授業改善 | ①単元・題材の特性を踏まえて、具体化した資質・能力を三つの柱で捉え授業を構想する。②「子どもがねばり強く自分の学習を調整しながら課題解決に向かうための手立て」を重点研究のテーマとし、他と豊かに関わりながら学びを深める授業を行う。③資質・能力の育成への効果を考えながらICTを活用する。 |
| 担当 | 教務・学習評価委員会 |

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童生徒の実態
 学力は、横浜市の平均を上回っている。また、昨年度に比べて、学力層Aの増加と学力層Dの減少が見られ全体としては学力が向上していると言える。学習内容を精選しながら身に付けさせたい力を明確にした授業づくりや支援が必要な児童への丁寧な指導が要因だと考えられる。



令和3年度学力・学習状況調査
 全学年「学力分析チャート」

経年変化と、国語、算数、社会の「好き」「大切」が昨年度より減少している。時間数に余裕がなく、見通しをもって主体的に取り組んだり、対話的に学んだりする機会が十分設定できなかったことが要因と考えられる。学力層Dの児童は、人と話したり聞いたりするは「好き」な児童が多い傾向があるため、授業での豊かなコミュニケーションの育成の取組によって全体がさらに学力を伸ばす可能性をもっていると考えられる。

(2) これまでの学校の取組状況
 授業研究を通して、単元を貫く言語活動を設定し、評価規準を明確にし、ICT活用を含めた伝え合いを豊かにする指導の手立てをとった授業研究を行い、日常のコミュニケーション場面への接続を図ったことで、国語科で育成した力を発揮する姿を見ることができた。

今年度の目標

重点研究で国語科を中心に、①相手意識や目的意識をもった言語活動を設定し、単元名にゴールの姿をえがくことで、子どもが言葉による見方・考え方を働かせられる単元を計画する。②単元や授業のめあてを子どもと教師が共有し、子どもが主体的に学習に取り組み、振り返って次につなげる。

目標を実現するための具体的行動プラン

○思考ツールの活用やタブレット端末の使用を含むICT機器の活用などの指導の工夫をすることで、子どもたちが自分の考えや思いを豊かに伝え合えるようにする。
1年: 伝えたい思いをもつことができるように子どもたちの関心や気付きを適切に捉えた支援を行う。
2年: できるようになったことが増えたことを実感できるように、学習の中に振り返りを位置づける。
3年: 国語科を中心に、自分の考えを表現したり、他との比較分類をしたりしながら、さらに豊かなコミュニケーション能力の育成を図るとともに自分の考えを深められるようにする。
4年: 既習事項を整理分類しながら、誰に対しても説得力のある伝え方ができるように、表現活動を高めるための文章構成力やスピーチ能力を向上させる場面を位置付ける。
5年: どの教科等の学習でも、計画的に振り返りの時間を設定し、これまでの成長や課題を捉えられるようにする。
6年: 国語科における「話す、聞く」能力の向上をめざし、日々の授業の中で、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりする活動を多く取り入れていく。
個別級: 一日の振り返りの場面を設け、自分自身の頑張りや気付き、お互いに認め合う時間を共有する。

下半期